

2022年 5 月

からし種

カトリック片瀬教会



聖霊降臨までは・・・

ブランチフィールド神父

4月 25 日今朝、机に向かって窓の外を見ると木々の芽はだいぶ膨らんで、小鳥は忙しく飛び回って巣作りに掛かっています。この窓の上のどこかに、ひと組がお宿を見つけたようです。去年片瀬に初めて来た時と同じ風景です。一年が早く過ぎたなあ、と思います。

今年の復活祭も過ぎて、聖霊降臨「教会の誕生日」を次の目標にしています。日曜日のミサの為に 10 名の聖体奉仕者の任命ができました。これからはローテーションを組んで順番に毎週 10：00 のミサに役割を果たします。共同体のミサに侍者も要ります。その役割は子どものものです。2年前からコロナの影響で子どもが出なくなったのでローテーションが乱れました。今後はできるだけ少なくとも2人の子どもが侍者として共同体のミサに奉仕します。徐々に子どもが増えるとローテーションを組むことができると希望します。共同体には子どもにも場があります。

土曜学校も同じように、コロナの影響でつぶれてしまいました。2年前から関わっていない子どもはお互いを知り合えなくなって、友だち関係が薄れてきました。聖霊降臨までには、10：00 のミサ後に来るだけの子どものために、勉強よりも遊ぶ時を設けて徐々に将来の日曜学校を立て直したい。お父さんお母さん皆さんのご理解とご協力をお願いします。

最後に復活祭は恵みの時であって感謝しています。10：00 のミサ後に皆さんが喜びを持って歓談している様子を見て嬉しく思いました。2年前から会っていない仲間と会って、できなかった集まりは大成功でした。これからは、ミサ後の集まりを設けましょう！

2022 年 4 月度 教会委員会報告

開催日時：2022 年 4 月 3 日(日)午前 11 時 40 分～12 時 40 分

出席者：ブランチ神父、委員長、副委員長、典礼、総務、財務、宣教司牧、福祉、広報、教会学校、中高大青会、MF 会、M^oン^oナ会、一粒会、市内キリスト教連絡会、片瀬修道院、モンタナ修道院

□ブランチ神父様挨拶

- ・いよいよ聖週間、復活祭が近づいてきました。一年で一番大事な時です。復活祭に向かってチームとしてよく連絡を取り合い、一丸となって下さい。

□日程

1. 聖週間詳細確認を別紙 典礼部作成「2022 年度 聖週間活動表」により行った。
2. 4 月 24 日(日) 第 5 地区共同宣教司牧委員会 15:00 大船教会

□報告および連絡事項

1. 下水道改修工事 関根工業所 見積¥400,400→承認。作業依頼する(総務)
2. くすの木枝落とし、他剪定 片瀬造園 見積¥191,400→承認。
作業依頼(総務)
3. クリスマス募金は支援先へ振込完了。(福祉)
4. 教会見学予定(宣教司牧)
 - 1) 4 月 23 日(土) 11:00 パラダイス(巡礼旅行業者) 10～15 名
長谷川路可画メイン。
 - 2) 4 月 26 日(火) 暁星中学 江の島散策後、山本信次郎ゆかりの教会
ということで見学。
5. 長谷川路可掛軸修復の件
 - 1) 長谷川路可掛け軸(エジプト避行)について信徒への閲覧用修復記録
書設置。
 - 2) 「聖家族」修復納入時立ち合いについて 4 月 9 日午前 11 時納入。
(紙守財団 稲森様)
 - ・納入時、「聖家族」と「エジプト避行」を入れ替える。
 - 3) 「十字架の道行き」は 5 月末納入予定。
6. ウクライナ危機人道支援募金は、3 月 27 日、4 月 3 日分¥70,755 を第 1 回としてカリタス・ジャパンに振込む。募金は継続するので引き続き信徒に呼び掛けを行う。(福祉)

7. 「からし種」について(広報部)

1) からし種5月号の発行日を5月1日にする。

(通常は前月末の日曜日)→了承。

2) からし種記事の一般公募をからし種に掲載。→承認。

3) からし種に連載されていた「日本の教会の歴史」を一冊の本にまとめた。貸出図書としたい。→承認。

8. 今年の福祉バザーは中止とする。(福祉)

9. 3月19日 教会学校卒業式。ハンドベルの練習もした。

10. 3月27日 中高大生青会 新中学生歓迎会。ゲームをして楽しんだ。自主性もでてきている。

□検討・討議事項

1. 3月13日信徒大会の振り返りを行った。(資料別紙)

2. コミュニティの集いについて

1) 開始時期 5月度教会委員会を5月8日とし「コミュニティの集い」は5月15日から。

2) 案内はがきの作成：宛名はシール印刷。裏面案内文は印刷し、開催日はコミュニティ毎に手書きで記入。

3) 各コミュニティの連絡役はまず教会委員が担う。

4) 連絡役の委員に各コミュニティに名簿を配る。

3. 信徒会館の冷蔵庫交換。Sさんから不要になった自宅の冷蔵庫の寄付申し出があり、信徒会館の冷蔵庫は‘90年製とかなり古いので本申し出を有難く受ける。搬送等の費用は教会で負担する。

4. 委員会の話し合いについて

神父様からの提案で各部会についての話し合いを持って互いに理解することとまりあ食堂と教会との結びつきについても見直しを行う話し合いを6月度委員会で行う。

次回委員会開催 5月8日

今年の聖週間

池尾昇治

ここ2年、コロナ禍でまともな聖週間を迎えられていませんでしたが、今年は少し以前の姿に戻ることができ、今までになかったことも行われました。

まず、4月10日の「枝の主日」は広場で外でもあることから「しゅろの葉を」を歌って枝の行列を行うことができました。

14日聖木曜日の「洗足式」ではこれまでとスタイルが変わって、神父様が二人の足を洗ったらその後信徒が順番に次の人の足を洗い、最後に神父様の足を洗いました。

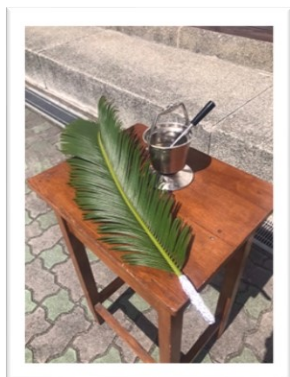
15 日聖金曜日での「盛式共同祈願」では、通常の祈願に加え、「ウクライナや世界中の紛争に巻き込まれた人々の救いを願う祈り」が加えられました。

16 日の「復活徹夜祭」では、「光の祭儀」で暗闇の中、全員がろうそくの灯を手に持ち聖歌隊の一人が助祭、二人が会衆となって荘厳な「復活賛歌」を歌い、キリストの復活を体験することができ、さらに6人の方々が洗礼を受けられたのは大きな喜びでした。

翌17日の「復活祭」は神父様の頑張りで、8時と10時の2回ミサがあり、特に10時のミサでは、信徒会館まで人が入って久しぶりの大勢の信徒が集まり、ミサ前には子ども達がハンドベルの演奏をして復活祭を盛り上げてくれました。ミサ後は信徒会館1Fのテラスまでテーブルを出してティーパーティー。神父様の「大いに楽しく話し合ってください！」の一言で、お昼時にも関わらずお茶とお菓子だけでしたが、久しぶりに和やかな会話が長い間交わされていました。

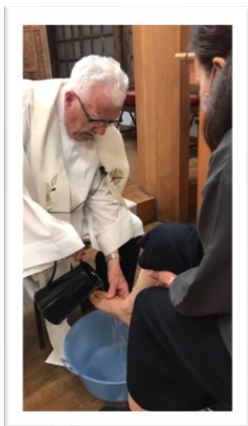
コロナの状況にもよりますがこれを機に少しずつでも教会の活動を平常に戻していければと思います。

聖週間のアルバム



† 枝の主日

† 聖木曜日（洗足式）



† 聖金曜日



† 復活徹夜祭（洗礼式）



† 復活祭（受洗者紹介、子供たちのハンドベル）

主のご復活
おめでとうございます




~~~~~ 受洗された方々からのメッセージが寄せられました ~~~~~

## 新しい命の道

マリア セシル E. K.

信仰宣言、ろうそくの授与…何もかも厳かで神聖のうちに洗礼を授けていただき感謝と喜びで胸がいっぱいでございます。

幼稚園から高校までカトリックの環境で育ちましたが、その後は仕事、家庭生活などに追われ信仰について深く考える余裕はありませんでした。それが人生の折返し点を迎える頃、突然心臓の病を宣告されました。人工心肺による8時間に及ぶ手術でしたが、麻酔から覚める前、夢の中で「てんにましますわれらのちちよ…」と唱える自分がいました。きっと神様が、もう少し心に余裕をもって生活するように教えてくださったのだと思います。それからは信仰がずっと身近になり、時々御ミサに与るようになりました。

2020年1月からは、仕事の時間調整ができ、念願の入信講座にも通えるようになり初めのうちは神父様の指定される聖書のページをめくるのがやっとでしたが、だんだんその奥深さにのめり込んでいました。しかし、3月頃からコロナで御ミサも講座も中止となりました。そしてそれにも増してショックでしたのが、パスカーレ神父様が病に倒れられたことです。

祈りと「写経」ならぬ毎日の福音をノートに書き写し神父様のご回復を願う日々でした。が…、今度は私自身が腹部の激痛で緊急入院、腸閉塞で手術をしましたが、その原因がステージⅢの卵巣癌によるものと分かりました。「癌」と聞き、真っ先にパスカーレ神父様のことを思い浮かべました。

再手術の時には、Oさんが芹沢神父様にお祈りをお願いしてくださり、その他教会の皆様にはどれだけ力づけていただいたか分かりません。

退院後は20回以上抗がん剤治療に通いましたが、山本橋や小田急線内などでパスカーレ神父様と偶然お会いし、状況をお話すると「お互いに頑張りましょう」と、おっしゃられたお姿が忘れられません。

20年10月からは、講座がストップしたままなので、Hさんが由比ヶ浜教会のマリオ神父様のところへ今年3月まで、一年半にわたり、毎週聖書のお話を聞きに連れて行ってくださり、そのユーモア溢れる話法に毎回魅了されました。

その間21年6月に、パスカーレ神父様が帰天されたことは、わたくしにとって言葉には出来ない深い悲しみでした。勝手に癌友と思っていた私は、「死」を身

近に感じ今まで以上に「信仰」を意識しました。ではいつ洗礼を受けるか？悩みました。コロナで月に一回しかミサに与れない、新約聖書も旧約聖書も十分に理解できていない…。しかし、昨年末マリオ神父様に「どうするのですか？」と尋ねられた時、はっきりしない私に神父様はマタイ、ルカの福音書の「弟子の覚悟」を思い出させてくださいました。まず受洗し、教会の皆様の仲間入りをさせていただき、それから信仰を深めていこう…と。

今年1月からは、ブランチ神父様による入信講座も始まり、同じ立場の素晴らしい仲間と一緒に受洗することができました。これもみな教会共同体の皆様の温かい支えのお陰です。

今日のこの感動を忘れず、洗礼名「マリア セシル」の名に恥じぬよう、「新しい命の道」を歩んで行きたいと思います。

## やっと辿り着いたこの“場所”

フランシスカ ロマーナ Y.S.

今はもう居ない父母ですが、家から近くのカトリック幼稚園に送り出だしてくれたのをきっかけに、高校卒業まで思春期も含めて十四年間同じ環境で過ごしました。その後幼稚園教諭として三十余年間、幼い子どもたちと神様に見守られながら、生活を共にし、私を育て導いてくださったシスター方とのご挨拶は「洗礼は未だなの？」「う～ん、未だなのです」になっていきました。きっといつか私にも、神さまから何か“お知らせ”とか“おしるし”とかあるに違いないと思って、目を見張り、耳をそばだててこの“とき”を待っていたのです。

そんな中、かつての同僚が闘病の末、クリスマスミサ参列後、昨年末天国に召されていきました。その少し前、食事を一緒にし、駅の改札で手を振り別れていた彼女の笑顔が脳裏に焼き付いています。敬虔なクリスチャンだからこそ、すべてを神さまに委ねている姿に、私もこんな風でありたいと、強く思いました。

年明け、片瀬教会に向かい、ブランチ神父様と信者の方に温かく迎え入れて頂き、ようやく教会の扉を自分の手で開けることができました。重いと思っていたその扉は、春風が吹き抜けたようにすうーっと開き、その向こうには子どもの頃遊んでいた原っぱのような、どこか懐かしい優しい景色が広がっていたのです。

## 光に至る道 洗礼にあたって

ルキア C.H.

歴史あるカトリック片瀬教会のみなさん、こんにちは。この度、洗礼までたどり着きました堀千晃といいます。

私のこれまでの歩みは、常に喪失感と共にありました。闇の中で救いを探し、数年前に立ち寄った片瀬教会が転機となりました。丁度、新型コロナウイルスの流行が始まったところです。そのような最中にも片瀬教会の方は私を招いてくださいました。その後さまざまな方のご協力により由比ヶ浜教会にいらっしゃるマリオ神父さまの聖書教室に通うこととなりました。持病の再燃や突如発病した網膜剥離の治療など、何度かの休止を挟みつつも現在まで続いていることは、正に導きであったと思います。

私は普段、写真家として活動していて、写真は私に不可欠なものです。しかし網膜剥離を発病したことで失明への不安に苛まれることになりました。そこで洗礼名はシラクサのルチアさまより頂きました。守護対象には目および視覚障害者が含まれています。名の表記はラテン語のルクスつまり光からの派生であるところを強調するため、ラテン語名のルキアとしました。目に見えるか否かに捉われず、信仰が私の光となって欲しいのです。洗礼で新しいいのちを頂いた後も迷いの多い歩みは続くでしょう。でも、私はもうひとりぼっちではなく傍らに主がおられるのだと思うと勇気が湧いてきます。

兄弟姉妹となるみなさん、これからどうぞよろしくお願い致します。

## 私達と神様(キリスト)との出会い そして、これから・・・

パトリック・ヨゼフ M.T.

4月16日復活祭前夜に家族3人、洗礼を受けました。今日はそこに至るまでの気持ちの変化をお話します。

高校生の頃、あるところのパイロット採用試験を受けました。その二次試験の面接を受けたときでした。部屋に入ると面接官が3人いられました。通常は30分程度かかりいろいろ多方面からの質問をされるそうですが、私の面接は極めて短時間で終了したのでした。緊張しながら入室した私に試験官は「きみはこの世においてなにが一番大切と思うか？」と漠然と質問されました。数分静



かに考えたのち出てきた言葉は「愛です」と一言。大きな声で真剣に自身をもって答えたのを思い出します。まだ世間知らずの田舎ものの高校生です。試験官は暫くの沈黙の後「はい、もう結構です」と面接は5分で終了しました。(内心、えーちょっとまって)私はまじめで純真な高校3年生でしたから、完全にもう駄目だ、とその後かなり落ち込んで帰った事を覚えています。その後すべて合格しました。

ブランチ神父様と毎週1回の教義を受ける中で、キリストの教えで大切にされていることが徐々にみえてきました。そんなある日この面接の情景が浮び、もしや「神様(キリスト)に始めて出会ったのはあの面接の時だったのかもしれない」と思ったのでした。我が家は仏教の家柄ですが仏教について勉強したことはありません。そんな私が洗礼を夢にも思いませんでした。

私達には遅くにできた一人娘がおります。家内は高齢出産のうえ初産、自然分娩で死ぬ思いで娘を出産しました。それだけに私達家族にとって一人娘は命に変えても大事な存在です。そんな娘はキリストの教えを根本にした小学校に通う5年生になりました。

そんな娘がある日、突然教会に通うようになりました。後にわかりましたが、学校内で何かとても悲しいことに巻き込まれた様子でした。きっと娘なりに、心のよりどころ、自身を見つめ、穏やかに過ごせる場所を求めているのかもしれない。

ある日のこと、娘から私にキリスト教の洗礼を受けたいと、申し出がありました。娘の真剣な眼差しに、父親として今なにをなすべきか、反対することではない、この子が思うところに生きてほしい、そんな気持ちから、洗礼を受けたいのなら、受けなさい、と返事をしました。その時の娘の笑顔は忘れることができません。

父はここから、色々悩むことになります。8年前に父母を亡くした私は当然仏教でと漠然と思っていたことです。堅物に見える私ですが、きわめて柔軟な考えも、もっていました。「今私たち家族に何が大切であろうか」私は自問自答しながら、娘と共にこの道に入る一大決心をしました。後戻りはできません。それから私の心の葛藤の日々が始まりました。

キリストと言えば十字架にかけられた程度の知識しかなかった私は、たくさんの資料を読み、DVDを見てはイメージをつかみキリストの教えとは、いかなることか、日々考え、心を整理し、亡き父母に相談、葛藤を繰り返し、気持ちを徐々に整理してきました。この間、数ヶ月におよびブランチ神父様には、大変お世話になり、暖かい眼差しで、心の進むべき方向を示していただきました。

神父様はいつも優しい笑顔と言葉で、その目の奥にある優しさで、私達の日々の状況を見ながら、私達家族を包んでくださいます。「知識を身につけるのは今後でも出来ますから、心を大切に神(キリスト)様を信じられるように、毎日少しずつ気持ちを傾けてください、「心が大切です」と。

「日常生活の中に徐々に神様に感謝する行い(習慣)を取り入れていってください」

私達の内面から大きく人生を変革する今を、すべてに正直に、信じるこの道を一步一步緩やかではありますが、歩んでまいりたいと家族で話しをします。

まだまだ、新人で無作法でわからないことばかりの親子3人ですが、一日も早く皆様方のような高き心に近づけるように、精進してまいります。これからも、宜しく御願いたします。

## 聖母マリアの不思議な話

風薫る5月は聖母マリアの月ですね。聖母にまつわる不思議な話があります。

場所はフランスのルルド。時は1858年。日本では安政4年で井伊直弼が江戸幕府の大老になり、日米修好通商条約が結ばれた年です。

2月11日村の少女ベルナデッタ・スピルーが郊外のマッサビエル洞窟の近くで薪拾いをしていると白い服を着た婦人が現れます。そしてベルナデッタに15日間続けて来るように言いました。ベルナデッタは聖母とは思わず、「あれ」(アケロ)と呼んでいました。噂は広がり人々は洞窟の前に集まるようになりますが、誰もその姿をみることはありませんでした。

2月25日ベルナデッタは地面を掘るよう命じられます。泥だらけになって地面を掘っているベルナデッタ馬鹿にして来ていた人々は村に帰ってしまいます。そのうち水が湧き出る様になり汲めば汲むほどきれいな水になっていきました。

3月1日に最初の奇跡が起こります。

隣村のカトリーヌが右手を水に浸すと曲がっていた指が元のようにまっすぐになり動くようになります。また、母親が死にかけていた赤ん坊を人が止めるのも聞かずに泉の冷水に浸すと翌日にその赤ん坊は部屋を駆け回るようになります。さらに右目をけがで失明した石工が泉で目を洗うと見える様になります。

ベルナデッタは「あれ」がここに教会を建てるよう望んでいると伝えると、神

父はその女性の名前を聞いてくるよう命じます。

3月25日、ベルナデッタは何度も尋ねると「あれ」は自分を「無原罪の御宿り」とするとルルド地方の方言で告げます。「無原罪の御宿り」が教義として公認されたのはわずか4年前。家が貧しく学校にも通えず読み書きもできなかった少女が知り得るはずもない言葉です。この名前を神父に伝えたと神父も村人も聖母の出現を信じる様になりこの噂は世界中に広まることになります。

以後聖母は7月16日迄ベルナデッタに18回に渡り出現します。

1864年に聖母が出現したという場所に聖母像が建てられ、小さな聖堂も建てられましたが、それは大きな教会になっていきます。

ベルナデッタは1866年にヌヴェール愛徳修道会の修道院に入りシスター・マリー・ベルナールとして外界と離れた静かな一生を送り、肺結核により35歳で没し、1933年に列聖されました。ベルナールの遺体はヌヴェール修道院に安置されていますが腐敗せず清らかなままです。

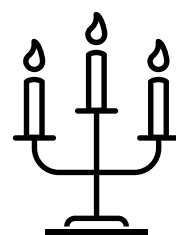
片瀬教会には、長谷川路可の「ルルドの聖母」の掛軸がありますが、路可は1949年（昭和24年）、鹿児島カテドラル・ザビエル教会にザビエル渡来400年記念絵画として、『少女ベルナデッタに御出現のルルドのマリア』を奉納しています。

## 一粒会5月の祈り

主よ、あなたの呼びかけに応え、福音をのべ伝え、人びとと教会に奉仕する司祭が若い人びとのうちから沢山おこされますように。

又、私達が日々の祈りと生活を通して、主キリストと結ばれ、力強い愛のあかしとなることが出来ますように。 アーメン

3月21日に山手教会にてアウグスティヌス水上健次助祭の司祭叙階式が行われました。皆様でお祈り致しましょう。（一粒会より）



## † 5月の典礼 †

|         |                   |         |                    |
|---------|-------------------|---------|--------------------|
| 1 日(日)  | 復活節第 3 主日         | 15 日(日) | 復活節第 5 主日          |
| 2 日(月)  | 聖アンタナシオ司教<br>教会博士 | 22 日(日) | 復活節第 6 主日          |
| 3 日(火)  | 聖フィリポ 聖ヤコブ<br>使徒  | 26 日(木) | 聖フィリポ・ネリ司祭         |
| 8 日(日)  | 復活節第 4 主日         | 29 日(日) | 主の昇天<br>(復活節第 7 週) |
| 14 日(土) | 聖マチア使徒            | 31 日(火) | 聖母の訪問              |

● 5 月度教会委員会は、8 日(日)に行います。

### ◆ お知らせ ◆

◇信徒大会でお報告した「コミュニティの集い」を 5 月 15 日から開催する予定です。別途各世帯へははがきでご連絡します。

◇カリタスジャパンのウクライナ危機人道支援のご協力を引き続きお願いいたします。募金箱は聖堂入り口にあります。詳細はポスターをご覧ください。

2022 年 5 月号

発行 カトリック片瀬教会

〒251-0035

藤沢市片瀬海岸 2-2-35

TEL. 0466-22-4646 FAX. 0466-25-7909

<https://www.catholickatasechurch.com>